

地方独立行政法人大阪市民病院機構 令和4年度決算概要

I 令和4年度決算のトピックス

地方独立行政法人として設立9年目となる令和4年度は、令和2年度、令和3年度に引き続き、総合医療センター、十三市民病院ともに、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として患者の受入れに取り組み、大阪市の同感染症対応の中核的な役割を担ってきた。

総合医療センターでは複数病棟の休止や手術の制限等を行いつつも、感染状況に柔軟に対応し、3次救急や高度な手術・治療などの一般医療との両立を図りながら、高度専門医療機関としての役割を果たしてきた。十三市民病院では新型コロナ専門病院としての役割を継続して担うとともに、周産期医療や地域に求められる急性期医療を提供してきた。

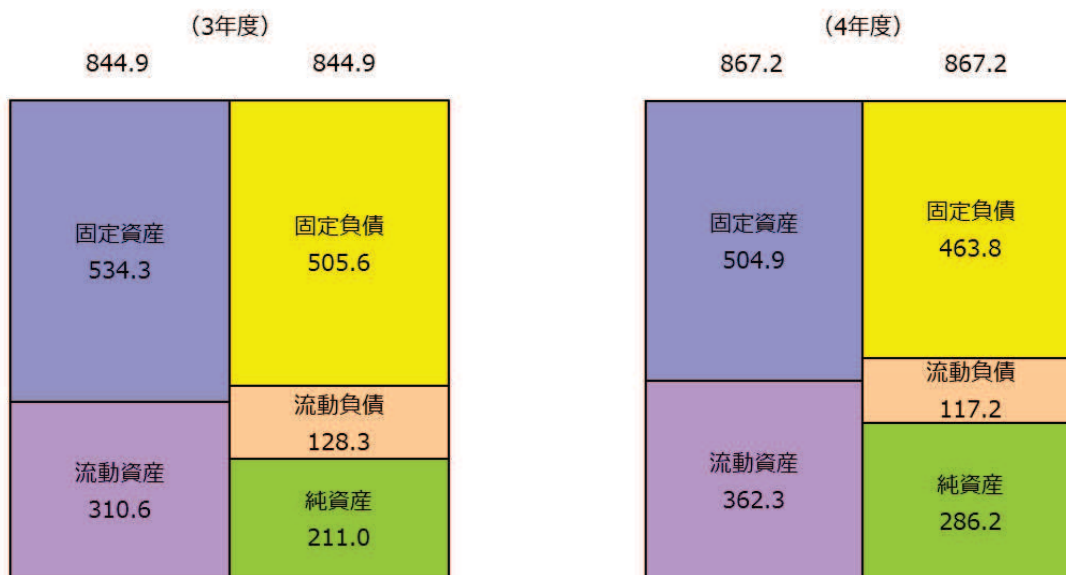
この結果、医業収益では新型コロナ患者の受入れ等による診療単価の増や入院及び外来患者数の回復に伴い、令和3年度より改善したものの、費用面では欠員補充に伴う人件費の増加や、物価高騰の影響により材料費が大幅に増加したことで、医業損益は令和3年度とほぼ同程度となった。純利益は、新型コロナの空床確保補助金の減により、令和3年度より減少した。

今後、医業収益は患者数の回復により改善する見込みであるが、一方で人件費の上昇や物価高騰による費用の増加が見込まれ、厳しい経営状況が続くことが予想される。引き続き市民病院に求められる政策医療をはじめとする医療の提供を継続し、公的医療機関としての役割を果たしていきたい。

II 財政状況（貸借対照表より）

- ① 資産合計は867.2億円（前年度比+22.3億円）
⇒ うち土地、建物、機械備品等の固定資産は504.9億円（前年度比▲29.4億円）
- ② 負債合計は581.0億円（前年度比▲52.9億円）
⇒ うち大阪市からの長期借入金残高は210.2億円（前年度比▲8.2億円）

●貸借対照表の推移



●長期借入金残高推移

	(億円)		
	3年度	4年度	増減
長期借入金	218.4	210.2	▲ 8.2
移行前分	150.2	115.9	▲ 34.3

●純資産内訳

	(億円)		
	3年度	4年度	増減
資本金	1.0	1.0	0.0
資本剰余金	3.3	22.0	18.7
利益剰余金	206.7	263.2	56.5
計	211.0	286.2	75.2

Ⅲ 経営成績（損益計算書より）

- ① 本業の売上高を示す「医業収益」は424.0億円（前年度比+14.3億円）
- ② 本業の利益を示す「営業損益」は92.6億円（前年度比▲20.2億円）
- ③ 営業損益に利息の支払い等を含めた「経常損益」は76.3億円（前年度比▲16.8億円）
- ④ 最終的な利益を示す「当期総損益」は75.2億円（前年度比▲17.0億円）

●主な項目の推移

(億円)

	3年度	4年度	増減
入院収益	286.2	292.9	6.7
外来収益	117.4	125.5	8.1
医業収益	409.7	424.0	14.3
補助金等収益	101.2	78.0	▲23.2
運営費負担金収益	73.3	73.9	0.6
営業収益	590.2	582.6	▲7.6
給与費	226.7	229.6	2.9
材料費	127.9	138.5	10.6
減価償却費	47.8	47.7	▲0.1
経費	71.3	70.6	▲0.7
医業費用	476.0	488.7	12.7
営業費用	477.4	489.9	12.6
医業損益	▲66.3	▲64.7	1.6
営業損益	112.8	92.6	▲20.2
営業外損益	▲19.7	▲16.3	3.4
経常損益	93.1	76.3	▲16.8
当期総損益	92.2	75.2	▲17.0

【収益面】

医業収益

・新型コロナ患者の受入れ等による診療単価の上昇及び患者数の増、高額薬剤の需要の増加による診療単価の増が影響し、収益が増加

補助金等収益

・新型コロナ感染症関連補助金が3年度より減少（うち病床確保補助金73億円）

【費用面】

給与費（医業費用）

・医師、医療技術職員の増や処遇改善手当の支給開始により増加

材料費（医業費用）

・脊髄性筋萎縮症治療薬や小児がん用抗がん剤等の高額薬剤の需要増により増加

経費（医業費用）

・光熱費の単価上昇や医療機器の借用、修繕の増加
・慰労金の皆減による減少

Ⅳ キャッシュフロー

(億円)

	期首残高	業務活動	投資活動	財務活動	期末残高	資金増加(▲減少)
3年度	92.2	135.5	▲22.8	▲10.8	194.1	101.9
4年度	194.1	115.7	▲24.9	▲42.5	242.4	48.3

Ⅴ 主要指標

	総合医療センター			十三市民病院			住之江診療所		
	3年度	4年度	差引	3年度	4年度	差引	3年度	4年度	差引
入院患者数	264,619人	267,375人	2,756人	21,609人	21,573人	▲36人	-	-	-
(1日平均)	725人	733人	8人	59人	59人	0人	-	-	-
(病床稼働率)	83.1%	82.8%	▲0.3%	43.1%	38.6%	▲4.5%	-	-	-
入院診療単価	101,950円	103,532円	1,582円	76,126円	74,491円	▲1,635円	-	-	-
外来患者	439,029人	458,198人	19,169人	58,186人	67,815人	9,629人	3,684人	4,841人	1,157人
(1日平均)	1,814人	1,886人	72人	240人	279人	39人	15人	20人	5人
外来診療単価	25,105円	25,472円	367円	11,824円	12,165円	341円	8,686円	10,948円	2,262円
医業収支比率	88.5%	88.8%	0.3%	39.8%	41.6%	1.8%	31.4%	50.3%	18.9%
経常収支比率	102.0%	97.3%	▲4.7%	117.6%	119.5%	1.9%	35.3%	54.8%	19.5%
給与費比率	50.2%	49.5%	▲0.7%	140.5%	130.5%	▲10.0%	137.5%	84.2%	▲53.3%
材料費比率	31.9%	33.1%	1.2%	21.0%	25.4%	4.4%	18.8%	17.4%	▲1.4%
経費比率	15.0%	14.3%	▲0.7%	58.5%	54.7%	▲3.8%	131.3%	78.4%	▲52.9%